

2月臨時教育委員会会議録（第2回）

- 1 日程 令和5年2月24日（金）
- 2 場所 生涯学習センター 3階 視聴覚室
- 3 案件
日程第1 会議録署名委員の指定について
日程第2 前回臨時教育委員会会議録の承認について
日程第3 議案第10号 中学校教科用図書の採択について
・・・資料1（学校教育課）
- 4 出席委員 教育長 濱崎 徹
教育委員 足立 義幸
教育委員 富山 昌克
- 5 教育部出席者 教育部長（教科用図書選定委員長） 萬田 栄治
教育部理事兼次長（教科用図書選定副委員長） 寺田 剛
教育総務課長 中村 真也
- 6 書記 教育総務課課長代理
- 7 傍聴者 14人

午後2時00分 委員会開会を宣して日程に入る。

○中村教育総務課長

みなさま、こんにち。令和5年2月の臨時教育委員会会議の開会に先立ちまして、事務局より、本日の傍聴者の報告をさせていただきます。

藤井寺市教育委員会傍聴人規則に基づき、傍聴者を募集したところ、14名の希望者がおられましたので、手続きの上、入室していただいております。

なお、傍聴の方々をお願いしたいのですが、本日お配りしております資料につきましては、傍聴者の閲覧用でございますので、会議が終了しましたら、回収させていただきます。お持ち帰りなさないようお願いします。

また、藤井寺市傍聴人規則第5条により、会議が始まりましたら撮影、録音は禁止となっておりますので、ご理解いただけますようお願いいたします。

なお、教育長及び教育委員の過半数が出席しておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、本日の会議が成立する

ことを報告いたします。

会議録は次回の定例教育委員会（3月23日）の中で承認されてからの公開となります。

それでは、教育長お願いいたします。

○濱崎教育長

皆さんこんにちは。ただ今から2月臨時教育委員会を開催いたします。本日の臨時教育委員会の案件は、令和5年度使用中学校教科用図書の採択となっております。内容に入ります前に、本日の会議録の署名委員は富山委員よりしくお願いいたします。

先般、臨時教育委員会の会議録をお目通しいただいたと思いますが、前回の臨時教育委員会の会議録について承認いただけますか。挙手をお願いします。

○委員

「一同挙手」

○濱崎教育長

ありがとうございます。それでは令和5年度使用中学校教科用図書の採択を行います。選定委員会の答申を踏まえながら学習指導要領の趣旨を踏まえ、最適な教科書を採択するために幅広い審議を行いたいと思います。

去る2月17日に藤井寺市立学校教科用図書選定委員会の答申を受けました。答申では、藤井寺市によりふさわしいと考えられる教科用図書の推進もしていただいております。本日はその答申内容を参考にしながら審議し採択を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは採択を行います。

まずは、数学科の採択を行います。選定委員長の方から答申の説明をお願いします。

○萬田選定委員長

数学の採択候補6社についての特徴等を説明させていただきます。

まず、東京書籍でございますがバランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」、「組織、配列」に特徴がみられます。例題に、類似問題にはひし形マークがつき、章末問題もA・Bに分かれていて分かりやすく、例題から練習問題単元末の基本問題、巻末の履修問題と検討しながら学習することが出来るように配慮をされております。このような理由から、選定委員会で推薦しております。

次に、学校図書でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」、「創意工夫」に特徴がみられます。単元末や章末において、社会や生活に数字を生かす数学を生かすことが出来る問題を練りこんでいて、有名な数学者に関する読み物なども豊富に揃っています。

次に、教育出版でございますが、特に「目標・内容の取扱い」、「組織配列」に特徴がみられます。各章末に「学んだことを活用しよう」、「数学の広場」等で数学を生活や学習に生かす具体的な場面について触れ、学んできた内容を使いたく

なるような課題設定がなされています。

次に啓林館でございますが、あらゆる項目に配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」、「組織配列」、「発展的な学習」に特色がみられます。各章や節の導入に力をいれており、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かして生徒が考えたいくなる課題設定がされています。また、巻末にある「自分から学ぼう編」は、小学校での算数のつまづきを復習するところから高校への入試問題まで、さまざまな問題を掲載しています。このような理由から、選定委員会で推進しております。

次に数研出版でございますが、あらゆる項目に配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」、「組織・配列」「創意工夫」に特色が見られます。各章の導入前に振り返りが出来るページを設けて、既習事項の適切な振り返りができるよう工夫されています。また、各章の練習問題の構成が、「問題A」・「問題B」・「高校発展」・「チャレンジ問題」とレベルに分けて配置されており、問題数も豊富に取り揃えております。このような理由から、選定委員会で推薦しております。

最後に日本文教出版でございますが、バランスよく配慮がなされており、特に「目標・内容の取扱い」、「組織・配列」、「創意工夫」に特徴がございます。章の扉では、創作的な活動を通じて、数学を学ぶことの意味・意義を考え、自ら発見的に課題を解決することができるように配慮がされています。

また、選定委員会では、「ICTの活用」、「単元の導入」、「章末のまとめ」等について議論が交わされておりました。ICTの活用については、どこの教科書にもICT活用が出来るようになってはいますが、ページ内にQRコードやインターネットコンテンツがあるマーク等が配置されているものと、そうでないものがあるという話が出ておりました。単元の導入については、どの教科書も日常生活に関する課題を取扱い、各章や単元に入る前に履修事項の確認をとおして子どもたちが自らの学習状況を確実に把握できるようになっている工夫が見られますという話も出ておりました。章末のまとめについては、問題数の量や難易度別になっていると、学力差があっても自学自習できるものがあるということや、3年間学習内容のまとめが掲載されていると入試でも使いやすいという話が出ておりました。以上でございます。

○濱崎教育長

ありがとうございました。それでは、答申を受けまして、採択の議論をしてまいりたいと思います。委員の皆様には、2月17日に答申を私の方で受けましたが、資料をお送りしましたので、今の委員長のお話をずっと読み込んでいただいていたかなと思いますし、1月の臨時教育委員会で採択替えの決定をお願いしてから、本当に短時間だったのですが、教科書の読み取りもずっとしていただいて、今日はその調査の結果についてみんなで議論していきたいと思っていますので、よろしくお願いをいたします。

まず最初に、数学の教科書を見ていただきまして、採択にあたって、委員の皆様はどういうお考えがあってどういうところを大切にしていきたいとお考えなのかを、意見を総括的にまず出していきたいなと思っておりますが、富山委員どうですか。

○富山委員

数学というのは、算数から引き続いて、一度でも分からなくなるといけないことで、あくまでも積み重ねの教科だと私自身が考えております。今回、6社のテキストを全て拝見したのですが、ほとんどの教科書で「振り返り」という項目を入れてくださっているのですね。とても素晴らしいシステムだと思います。分からなくなると次に進んでいかなくなるんですよ。問題も、毎回同じようなパターンの問題からちょっと難しい問題を入れていく、でも同じパターンなんだよというのをいかに生徒さんに伝えていくかが数学かなど。あと、数学は数字を扱っていますが、実はテストのときは国語の問題だと言われています。読解力がないと、テストを受けた時に回答を導けないので、その辺を重点に僕は数学とはどういう学問かと考えております。

今回、テキストを見させていただいたのですが、本というのはどんな本であっても、まず表紙を皆さんご覧になるんですね。続いてどこを見られるのかという裏表紙を見られるんですね。ほとんどの方がパラパラパラと捲られて、もし巻末に付録等が付いていたら面白そうだという感じで反応されるんですね。私自身も16冊ほど本を出版させていただいているので、本とはどういうものかという、どうすれば人様に読んでいただけるのかというところを絶えず考えておりますので、今どきのこのテキストを拝見して本当にびっくりしました。すごく全て読みやすい状況になっております。

あと、どこを僕は一番の視点で見ているのかというと、やはり著作者数とか、何人の方が集まって書かれたのか、あと校閲されている方がいらっしゃるのか、どのような専門の方がどの項目を担当されているのかというところをすごくこだわってチェックしておりました。

また、見開きの教科書の使い方が一番大切なんですね、たかだか10ページ、12ページ、各社によって16ページ書かれているところもあります。この教科書はこのように使ってくださいと必ず初めに書いてあります。1・2・3年、そこには出版されている方の著者の数学に対する学びの哲学が書かれているんですね。ですからたかだか10ページなんですけど、そこをしっかりと読まれると、どのように勉強していけばいいのか分かりますので、各社それぞれの素晴らしい哲学があって改めて僕は中学校の勉強から40年以上経っているのですが、素晴らしい進歩を遂げているんだなと思って感動いたしました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。足立委員はどうですか。

○足立委員

保護者視点的な意見かもしれないんですけども、情報量が優しいものから、難しいものまでバランスよく教科書に掲載されていて、その教科書が一冊あれば大丈夫というものになっているのかどうか、極端な言い方になるかもしれませんが、先生がいなくても教科書を読めば子どもたちが自分自身で学べるようになっているかどうか、さらには、掲載されている問題数のボリューム感があるとありがたいなと考えています。

例えばではあるんですけども、見やすさを重視して余白を取ってあるような

ケースがあるとしみますと、それが情報量の不足に繋がってしまっているのは教科書としてバランスがいいものとは思えないかなとも思っています。いろんな教科書を拝見させていただいて感じたことの一つです。以上です。

○濱崎教育長

両委員さん、ありがとうございます。まず、富山委員からは教科書の哲学ですね。私もすごく大事で正に教科書会社がどのような趣旨で作成しているのかというところだと思います。すごく大事な視点だと思っています。足立委員の方からは、教科書は本当に子どもの学びに役立つものでないといけない、そんな教科書を選びたいという話でした。中学生になって、算数から数学へと移行しました。数学は「物事がなぜそうなるか」を、数字や記号を用いて、論理的に説明する力を身に付ける「学問」です。未来に向かって生きていく中学生は予測不可能な社会で困難に向かい果敢に挑戦し、みんなで協働しながら、粘り強く解決へ導いていく姿が求められています。その際、数学的な見方や考え方は大いに役立ちます。

数学が生活や社会の中で有用に働いている、役に立っていることが実感できる教科書。また、多様性を重んじる社会で生きる中学生です。お互いに尊重しながら、創造的に問題解決に進んでいく学び体験ができる教科書を選びたいと考えています。

さて、具体的な審議に入っていきますが、萬田委員長の方から答申をいただきました。これから審議するにあたりまして、各教科書会社が学習指導要領の趣旨を踏まえて、どのように工夫しているのかが一番大切な視点だと思うのですが、富山委員の教科書の哲学や足立委員の情報量の質や量というのは教科書に欠かせないと思っています。この間、調査していただきまして、委員が大切だと思っている観点についてはいろいろ聞かせていただいておりますが、私の方から審議を進めるために少し視点を絞って議論をしていきたいと思っています。

皆様のご意見の中で、やはり外せないなと思っているまず1点は、数学的な見方・考え方で、これは全ての教科で新学習指導要領の中で重視されている大きな大きな柱ですので、これを一つの柱にしたいなと思っています。それから、数学で今1番注目を集めているのは未来に繋がる能力としてこの情報化社会で期待されている能力として、データ活用能力、この部分につきましては、かなり改訂の中でも重視されていたということなので2番の柱、それと関連してこれからの時代ですので、教科書の中身というよりも集団行動とかICTの活用だとか、そんなものもすごく議論されるのかなと思っています。最後にトータルして本の見易さとかいろんなものも考えていかなければいけないなと思っています。今、4つくらい挙げましたがそれでよろしいでしょうか。

○委員一同

はい。

○濱崎教育長

それでは、まず、1つ目の柱として、数研出版で、ここのタイトルですね。一番最初から日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる、とタイトルが前

に書いてあるんですね。これが今回の学習指導要領の一番の大きな見方・考え方の目玉かなと思っております。数学的な見方・考え方を働かせるということはどういうことなのかというと、論理的・統合的・発展的に考えるということかなと思っております。現実の生活の中で中学生が先ほどから何度も言っていますが、何か困難に直面した時に、複雑な事象をすごく簡単に表現したりとか、そういった事象の組合せをしながら解明したりという数学的な見方・考え方がすごく役に立つのかなと思っていて、その視点は全ての教科書で重点的に扱っている内容だと思うのですが、そんなことも踏まえながら教科書を見られた時にどんなお考えがあったのかということで、ちょっとこの辺を少し外れてもいいと思うんですが、ご意見があったらなと思います。富山委員どうですか。

○富山委員

私自身の個人の見解なんですけれども、学生時代に数学の先生で数学の歴史とか人類が数字を触り始めた時の話を随分してくれたんですね。実際、僕の専門は園芸・生物なんですけれども、江戸時代に田んぼを作っていくのに三角関数を使っているんですね。当然、溜池から水を引っ張って田んぼをつくるという日本独自の数学の和算というものがすごく発達していたんですね。そういう話を学生時代先生が勉強をする前に教えてくれていたので、すごく壮大な人類の歴史・物事の考え方の上、問題の解き方を教えていただいたのでいまだに印象に残っているんですね。ですから、今回テキストを拝読しながら江戸時代の和算のことに書いてあるコラムも多数ございました。すごくうれしかったです。きちんと現代のテキストには過去のことも書いてくれているんだ、アルキメデスの発見というのも本当に感動いたしました。

例えば、学校図書1年生の280ページを開けてほしいのですが、ここに円周率パイの話が見開きで書いてくれているんです。当然ここにもアルキメデスと江戸時代の関孝和という和算の研究者の写真で載せてくれているんです。

こういうたった一つの円周率というキーワードであっても、僕は昔大学の先生に円周率ってどこまで続くんですかと聞いたことがあって、限りがないのが円周率なんですけれども、当時のパソコンを使って高さ40センチくらいの繋がった用紙を持って来てくれたことがあって、先生これは何ですかと聞くと、君が円周率を最後まで見たいと言ったけれども、ここまでしかプリントアウトしてもらえなかった、すごい量の紙の束を持って来て目の前においてくださったことがあって強烈でした。

人生1度でもそういうちょっとユニークなパフォーマンスかもしれないけれども体験することによって、数学の大切さ、なぜ勉強するのか、なぜ難しい問題があるのかというのが全てこういうところから始まっていくのではなかろうかと思えます。

あと、教育出版にも同じようなことが書かれているんですね。1年生の276ページを開けてもらえますか。ほぼ一緒に関孝和さん、アルキメデス、書いてくれています。また、ここには円周率の数字がずっと書いてくれていますね。なんと日本は日本独自で江戸時代にこの和算を発達させていったのですが、小数点40桁までちゃんとあみだしているんですね。僕は本当に西洋の方には負けていない日本独自の文化があったんだと思って、本当にこれは誇らしく感じたんです。

ですから数学的な見方って何ですかというと、江戸時代お米はお金であり食料でありいかに田んぼを広げていくかという、すごく命に関わる、力に関わるようなところも全て三角関数から導き出して溜池から田んぼに水を用水路に引っ張ったという、本当に生活に密着した、時にはそれは本当に人類の存続にかかわるようなことがこの数字に表れているんだということが、全てこの円周率パイからも始まっていっていると思うんですね。

ですから、この日本文教出版3年生の228ページにも同じように書かれていますよ。和算歴史と書いてくれているんですよ。6社のうちここだけが日本の江戸時代の算数の歴史について石碑とか書いてくれているので、たかだかこの見開き2ページだけでも日本人の今まで積み重ねてきた数学の歴史が見れるんじゃないかならうかと思えます。このような、中学生にしっかり伝えられるような読み物、コラムが充実しているテキストというのは本当に勉強するきっかけになるんじゃないかならうかと思っております。

○濱崎教育長

ありがとうございます。富山委員のおっしゃるとおり、数学は面白いなと思えるようなきっかけってすごく大事だなと思うのですが、その辺が散りばめられているということです。私の方も1ついいなと思ったのが、東京書籍の1年生の初めの見出しです。それこそ、表紙に教科書の哲学があるというお話があったと思うのですが、数学の世界へようこそという文章で、ちゃんと見ていただいたら数学の世界へ算数から数学へ誘うような文章になっていて、小学校とは本当に違うあたらしい世界へ導いていくような文章だなと思っていて、世界への探検家になったつもりで数学の学習を始めましょうというような、何かそそるような文章があっただけいいなと思っております。

数学に関してはコラムのお話が出てきましたけれども、先程の選定委員長の話では学校図書なんかを紹介はしませんけれども有名な数学者を扱うという結構量が多いというお話があったと思えますし、有名な数学者や面白い人物もたくさんいろんな教科書に紹介されているなというふうに思っております。足立委員はどうですか。

○足立委員

よく言われることだと思うのですが、数学の本質というのは論理的思考を養うことということが挙げられると思えます。順を追って積み重ねた知識を使って問題を解いていくことを体験させて、自分自身で発表や説明をすることで、本当に理解できているのかというのを知る機会になるのが体験学習、というふうに考えています。その機会をどれだけどのように作っていくのか、というのは授業の中での先生次第という形になると思うのですが、啓林館は教科書を通じて体験学習ということの重要さを投げかけているそんな印象がありました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。今、啓林館のお話がありました。私も結構丁寧に書いているなということで、全ての単元で目当て・例題・問・練習問題という流れを作って、それをしっかりしたベースにしてその解説が計算問題も含めて丁寧だ

などということです。

啓林館1年生の70ページをちょっと見ていただけますか。ちょっとした気の使い方だと思うんですが、 $5\text{エックス}+3\text{エックス}=\text{}$ という式がありまして、それはそのまま計算していくのですが、その横にブロックがあるんですね。結構低学年が使って確かめるような視覚で訴えて確かめていくというふうなところが、結構細かく丁寧に解説しているなど。いろいろ理解の差があるところを補っていて丁寧だなというふうな感じがしました。他に富山委員、何かありますか。

○富山委員

数研出版の別冊ノート、ここが唯一テキストの中で別冊の「これからの数学探求ノート」を付けていらっしゃるんですね。この中で1年生28ページなんですけど、日本の伝統的な文様について取り上げられています。こういう元々の日本の麻の葉の日本の伝統的な赤ちゃん等に使ったりしてたんですけども、こういう物も全て数学と関わってきているということで、あまりにも長い歴史の中で普通のデザインとして僕らは見慣れているのですが、きちんとした数学の考え方に基づいて出来ているということをこうやってわざわざ取り上げてくださっているので、生徒さんたちに、いかに数学を勉強することが意味のあることなのかということを伝えることが出来ると思います。

あと、この間の東京オリンピックのエンブレムですよ。東京書籍の1年生182ページになるんですが、こういうようなものも当然平面図形で学んだ図形として実際に作図して提示されているので、僕はこういう数字を扱っていてもデザインと関わってくるんですよという教え、将来ファッション関係、僕はおしゃれが大好きだから、私もおしゃれがしたいからという子に関しても、実は数字が関わっているんですよということが、実際、こういうものを載せてくださっているので伝えやすいかなという気がします。あと、日本文教出版にも同じようなものがございました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。数学的な見方・考え方という話で私は先ほど違うような話をしてしまったのかもわかりませんが、足立委員は何かありますか。

○足立委員

教育長のおっしゃる数学的なものの見方や考え方というのは実生活の中でどれだけ数学が役に立っているのかということだと思うのですが、例えば、啓林館さんの巻末あたりの「数学ライブラリー」であるとか「自分から学ぼう」という項目の中には、より身近な内容で今後の数学の学習に結びつけられているように工夫されていて、個人的にはいい印象を持っている部分です。また、数研出版さんに関しては、身近でイメージしやすいものが多く取り上げられているなどという印象を持っています。

○濱崎教育長

ありがとうございます。見方・考え方のお話しをしていただいたように思うんですが、数研出版のお話も今出ましたけれども、どの教科書も見方・考え方につ

いては力を入れておられます。先程、数研出版の方については、タイトルのところに前面に考え方が出ているということだったんですが、今日、内容としてどこでもいいんですが、2年生の116ページを開けてもらおうと、4人の生徒が対話をして授業が進んでいっている形になっています。このように、見方・考え方を育てていくために言語活動みたいなものがすごく重視されているので、授業の形態そのものが対話的な話で進んでいくような形というのは大変上手に教科書を書かれているなと思っています。

それから、学校図書1年生262ページ巻末の部分ですが、「さらなる数学へ」というところで、これも全体で見方・考え方の進化とまとめであるというページになりますね。見ていただけましたでしょうか。

それから、日本文教出版1年生裏表紙の方で、綺麗な写真が載っていますが、中学校数学へというところでこれもこれからの数学の学習を暗示的に見方・考え方みたいなものを強調しながら示しているのかなと思います。

それから、教育出版1年生の方を見ていただいたら、教科書の作り方を面白く作ってあるのですが、正に数学的な考え方をどのページを開いても見えるようにということで、折り込みを出してあって、半分くらいのページを織り込んであって、それがどのページが出ていても開いていたらその観点が見えているという形で考え方を共有しているというふうなことで、こういうふうに見ていきますと全ての教科書で見方・考え方というのが工夫されているなというところです。他に富山委員からございますか。

○富山委員

学校図書の1年生ですが、魔法陣を取り上げているんですね。例えばこういうのも数学の歴史というかちょっとしたお遊びになるんですけども、とにかく人類が10進法が進歩してきたんですが、コンピューターは電源が入るか入らないかで2進法で成り立っているんですね。こういうちょっとした歴史のお話をしてあげるだけで、面白みが出てくると思うんですね。

特に数研出版の1年生252ページを開けていただけますか。ここに塵劫記の俵杉算が入っているんですね。俵を積んでいる物が何個でしょうという江戸時代の算数ですよ。この積まれた俵を逆さまにして横に置けば掛け算して割る2で出るでしょという、本当に鶴亀算的な小学校の算数的な考え方なのですが、こういうことがすごく小さな時に感動したことが未だに続いているということで、とにかく今の生徒さんにも記憶に残してあげたいと思いますし、何よりもこんな勉強をして一体何になるのということが、例えば教育出版1年生287ページを開けてもらえますか。天気予報士について書かれているところがあったんです。ここに女性の天気予報士、NHKの連ドラでも天気予報士になるそういうお話がございましたが、やはり数学・科学・生物を学んでおかないとなれないんですよ。実際、そういう朝ドラを観て、天気予報士いいな、と思われた方が今きちんと数学を勉強しておかないとなれないんですよという意味でも、こういうページがちょっとあるだけで具体的に自分の人生の目標を定めた中学生の皆さんにとっては今、この算数・数学を勉強することがすごく意味があるんだということが伝えられると思いますので、こういう表現は他社にも仕事場のことが書かれているところがありました、とてもいいと思いました。

あと、暗号と素因数分解について、日本文教出版1年生260ページを開けてもらえますか。ここに暗号と素因数分解ということも書かれていて、他社にもよく似たページはあるんですが、今皆さんがお使いになっているクレジットカードの不正使用を防ぐ本当に基礎的な始まりですよ。ですから、いかに現代社会が数字で動いていて数字によって便利な世の中が出来上がって来たんだというのが、各テキストですごい工夫して書いてくださっているの、実際に全部拝読させてもらって面白いなと改めて感じた次第です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。富山委員のお話を聞いていても私の目標にしている数学を学ぶ意義や有用性を実感させるということに繋がっていて大切だなと思ってはいるんですが、ずっと教科書の特徴を見ていただいて、ものすごく数学を勉強の中だけで閉じ込めてなくて、生活の中と一体になるような感じということでは、啓林館の2年生34・35ページをちょっと見ていただけますか。見開きに大きなイラストで絵を描いているんですが、お話は社会福祉体験で点字体験とか車いす体験をするのに皆さんで班分けをしてくださいね、というお話なんですが、正に実際の社会の中で起こる活動ですが、これは連立方程式の勉強なんですね。まず、生活の中でこんな場面に出くわした時はどんな考えをするのというところで、連立方程式を使えますよという形で導入すれば、ということを進めていくという手法が面白いな丁寧だなという感じを受けています。この教科書会社はすごく勉強しているなという思いでいっぱいです。ずっと数学の見方・考え方で話をしていますが、足立委員は何かございますか。

○足立委員

ちゃんと理解できているかどうかというのは、ちゃんとアウトプットできるのか、説明できるのかということも大事なんじゃないのかなと個人的には思っていて、その中で、学校図書では、巻末の「さらなる数学へ」において、社会的な話題に関連させていて、数学はこのように使われるということがイメージしやすいような教材にはなっているんですけども、こういう協働学習というものを通じて発表の機会を設けて理解していくというようなプロセスを経ていくというのはいいかなとは思っています。

今、学校図書の話をししましたけれども、他の出版社の方も同じように意識されているということは合わせてご報告させていただきます、以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。次の柱のデータ活用ということでお話を進めたいと思っています。これもすごく今回の学習指導要領の中では注目されている柱立てだと思いますが、どうでしょう。私たちの身近な生活の中で特に最近すごくデータが氾濫しているというか出てきている、商品の購入からスポーツの分析・医療等いろんな中ですごくデータ化されて広がってきているということで、それが子どもたちの生活の中にまでも氾濫してきているなという事で、これからこういう世の中、データをうまく使う工夫ということが重要になってくるのですが、日本ではまだこのデータ活用が出来た人が不足している、リーダー的にも不足している

とされている中で、数学を初めて学ぶ中学生がすごく早くからデータの活用を体験的に学ぶということは本当に意義のあることなんだと思っていますが、今回の学習指導要領の改訂はそういう時代背景を踏まえて、データ活用を充実させるという中でかなり内容も移行してまして、1年生で累積度数を習うとか、高校で習っていた四分位範囲なども中学校2年生に移行されてきている、ということで、統計の内容を扱うにあたって、批判的な考察ができるクリティカルシンキングというやつですね。ある考えを前提にしながら、科学的・論理的に考えるという力が求められていて、もう小学校の6年生からデータを活用した問題の確立方法という世間一般で使われているPPDACサイクルみたいなことも6年生くらいから出てきているということで、中学校ではもうこのサイクルを使って問題を解いていくということが日常生活に直結していく能力だと言われています。そういう統計的な解決方法が身につについて、それを日常生活の中でうまく解決できたみたいな良さが実感できるような勉強ができるようにすごく教科書会社の中でもデータの素材や学習活動の工夫というのが要求されているんだと思います。みんながデータに敏感な社会になっていますので、この辺のところのご意見をいろいろ聞きたいですが、富山委員からお願いできますか。

○富山委員

私たちが中学生の頃はこういうものは無かったと思うんです。これ7章に全てのテキストが文科省からの指導だと思えますが、データの活用という章がございまして、こういう内容を学ぶことはビッグデータを活用することで様々な分析が出来るようになってきますので絶対に必要なんですよ。今は全てデジタル社会になってどんどんどんどんデータが集まっています。それはどう活用するのかが一番大きなこれからの課題、もしくは教えになると思います。

それで、この7章を全部このテキストを一生懸命熟読したわけですよ。特に面白いなと思ったのが、啓林館1年生214ページ、ゆっくり落ちる紙の形や大きさというこの紙吹雪についてデータをとりながら検証していつているんですね。そんなことどうでもいいやんと思うかもしれませんが、学生、生徒さんたちがこの啓林館のテキストのこれを見た時、実際にコンサート等に行かれて体験されている方もいらっしゃると思うんですが、たかだか紙が落ちていくだけでもデータがとれますし、それを応用できるんだよというところに驚きを与えられると思います。

さらに、僕が一番興味を持ったのが、日本文教出版の1年生224ページ、気温が上がっている温暖化についてやはり書かれているんです。これは人類の存続に関わることなので、私も専門上植物を取扱っておりますので、地球上の温暖化をどうすれば止められるのかというのをずっと考えています。それを是非とも若い中学生の皆さん、今後未来に発展していく頭脳にかけてみたいと思いました。

ですから、この日本文教出版さんの7章のデータの活用は本当に素晴らしいなという気もしました。中学生にとって身近な話題を書く出版社の方は頑張って扱ってくださっているんだなと思います。

○濱崎教育長

富山委員のお話にも引き続いて、私も啓林館のゆっくり落ちる紙の形や大きさ

という紙吹雪のお話をみんなにしたいなと思ったのですが、今お話ししていただきましたので、もう一つ言うと、東京書籍2年生178ページを開けていただけますか。2年生の章が一番改訂された部分で大きな改訂された部分で、流行りの時によく売れる商品をどうやって見つけてきたのかというふうなことで、先程いましたPPDACサイクルを使って、問題を出して計画してデータを分析して結論を導き出すという流れの中で学習が進んでいくんですけども、パッと見た時にヒストグラムでは4つの要素は比較しにくいという話で次の段階へ進んでいくというところで、本当に上手に勉強が組み立てられているなというふうに思っております。それから、見ていただいているかなと思いますが、学校図書の「ルーラーキャッチ」という定規を落としてパッと掴めますかというデータをとって考察していくという工夫があるなと思っております。結構体験型とか素材を生かすということなんだと思いますが、足立委員は何かありますか。

○足立委員

だいたい最後の章がデータ関係のものにどの出版社もなっているんですが、ページ数的には言及するほどの差はないのかなと思えました。この分野というのが、数字が苦手な人には初めからちょっと抵抗感を持ってしまうような分野かなというふうには想像するのですが、各社とも生活に則した題材を取扱っているので、抵抗感をなるべく軽減してあげようというような点は評価したいなというふうには思っています。

例えば、数研出版は、データ活用の章で気温などの日常的なネタを基にしてデータの特徴を捉えやすくする方法としてヒストグラムについて23ページに渡って記述していますし、学校図書は1年生158ページご覧になっていただければ、人口ピラミッドがあって今抱えている問題の一つではあるとかとは思いますが、そういうものを取り上げてヒストグラムについて扱っています。

○富山委員

どちらも環境問題と人口問題ましてやエネルギーの所要問題は全て人類の存続に関わることなので、こういう例えがあったらすごく未来に向けていいことですよ。

○濱崎教育長

今、データ活用ということでずっと話が進んでいるんですが、他に何かございましょうか。よろしいでしょうか。それでは次の観点で、それに絡んでくると思うんですけども、QRコードの質とか量とかICTに関わるような問題で、正にGIGAスクール構想で学校教育にも急速にICT化が図られてきたというふうな一つで、それに伴い、たぶん教科書会社さんもQRコードの開発にすごく力を入れていくのかなと思っております。教科書会社さんの教科書の説明では数学で扱う本文だけではなく一人一人の子どもが興味関心に応じて個別学習とか家庭学習とかで活用できるように設定していますよ、ということと、学習指導要領に示されていないものも扱っていますよ、一律に全てを学習する必要はありませんという言い方で説明されておられます。基本的に、いつでもどこでも個別最適な学びというんですかね、それから主体的な学びを支えるこれからすごく重要なツール

になっていくのかなと予感しているのですが、このことについては富山委員、どうでしょうか。

○富山委員

実際、僕は書籍が大好きで、本を触る質感というのがたまらなく大好きなのですが、世の中は本当にデジタルの方に移行してしまっていて、こういう紙媒体のテキストがいつまで残るかわからない時代になって来たと思うんですね。江戸時代の園芸書とかも集めるのですが、100年を過ぎると紙の本というのは崩壊して崩れていってしまうんですよ。紙自体が維持できないみたいです。ですから、こういうQRコードを付けて、さらにネット上で問題があったりパフォーマンス的な教えがあったりすれば、その本一冊の重み以上の情報がインターネットを使って生徒さんたちに届けることが出来ると思いますので、これは出版社によってもその力の入れ具合が違うと思うんですね。

実際、スマホでQRコードを読み取ったりして動画が始まったり問題が始まったりするんですが、すごくそういうところが今後の出版社の姿勢、そのお伺いしたいなと感じたところなんです。必ず何かあったらいいのかというのではなくて、質と量、クオリティとクオンティティの問題になってくると思うんですね。いくらでも量は付けれると思います。QRコード一つでこのテキストから派生する参考書10冊でも100冊でも付けることが出来るんですが、生徒さんがいかに楽しんでゲームをするごとく、それを見てくれるかどうかという演出方法も今後すごい注目すべき点になってくると思うんですね。

取りあえず、啓林館さんのは実際のところ面白いなというのを感じました。自己確認できるようになっているんですね。数研出版さんの方は書き込みが出来るようになっていて、ノートのように使えるということで、やはり、出版社によって特徴が何かしらあるような気がしました。

○濱崎教育長

足立委員はいかがですか。

○足立委員

数学の授業でICTの活用の割合とか必然性がどれぐらいあるのかなと、あと、それを踏まえてどれぐらいの質とか量が求められているのかということも考慮したい点かなと個人的には思っています。各社とも表示数的にはバラツキがあるんですけども、必ずしも数の多い少ないが質の優劣に結びつくということはないと思うんですけども、富山委員の言われていたことと近いところがあるんですけども、数の多さというのが社としてのICTの意識している裏付けという様などところとも解釈することが出来るんじゃないのかなと。

今後さらに教材におけるICTの需要度が増していくのではないのかなと思うんですが、そういうような状況を考えていくと現時点での内容の差というのがひょっとしたら取組姿勢によっては大きな差を生んでいる可能性もあるのかなというふうには感じています。

あと、質に関してなんですけれども、どの会社も頑張られてはいると思うんですが、個人的には数研出版さんと啓林館さんには質の高さというのを感じていま

す。紙媒体と違って動画の方がブラッシュアップさせていきやすかったと、且つ、タイムリーに差し替えていくことも可能なので、それを使っていく先生や生徒にとっても利用価値が高い教材となっていく可能性が高いなと思いますし、今後それぞれの会社のそういった面での努力というものには期待していきたいなというふうに思っています。

○濱崎教育長

我々が考えなければいけないような課題がここには出てきているのかなと思っていて、教科書会社がこれから伸びていく部分だと思いますので、どういう風に研究されてどういう風に手を打っておられるのかということと、我々教員の方もこれをどう使いこなすのかというところで、重要なポイントなのかなとお話を聞いていて感じました。

すぐ使えるコンテンツという意味では啓林館さんが164か所ということで、それも教科書のさまざまなところに配置されていて使いやすい・便利だということですね。ここについても、選定委員の意見でもQRコードが分かりやすいとか、自学自習しやすい、巻末が充実してレベルが高いという、教科書の中にQRコードがあって学習の中に繋がりやすい等、評価をしているところだと思います。他にQRの点で何かございますか。

○富山委員

例えば、啓林館さんは表紙にQRコードを付けておられるので、テキストを開く前に生徒さんがここから読み取ったらたどり着くという風になっておりますので、そういう意味では新しい時代に突入しているのかなというイメージを感じます。

○濱崎教育長

他にございますか。よろしいですか。それでは全体を総括するようなことで、その他見やすさとかということでご意見があればいただきたいと思いますが、富山委員いかがですか。

○富山委員

僕は著者の先生が何人なのかというのを一番初め見ていたんですね。そのテキストの表紙を見て裏表紙を見て、一番の最後のところ、あと保護者へのメッセージ、そういうのも書かれている出版社、すごくそれは格好いいと思いました。親御さんのためにメッセージを送る、子どもさんにこういうところを勉強してほしいんだ、とあえて貴重な紙面を使って親御さんにメッセージを書く、そういうところが出版社の中、素敵な姿勢を感じられましたし、本当にその著者の方の人数がバラバラなんですね。

東京書籍さんが94名くらい、学校図書が48名くらい、教育図書が27名、啓林館が128名と断トツに多いですね。文教さんが42名くらい、数研出版も41名くらいになっているんですよ。僕はその先生方のそれぞれの得意分野を担当されているからこういう数になったんやろうなと想像したんですね。ですから、先生がいっぱい関わっているからいいとは決めつけられないのですが、本を書く

ということは責任を取る、僕らは物書きとして恥をかくことと感じているんですけども、それぞれの大学の先生方が必死に中学の数学に対して考えられてこのテキストを作ってこられたんだと思って、僕はそういう意味では先生方の数というのもすごく選ぶときに考えました。

何よりも本好きになってほしいということで、やはり手触りですよね。関わっている写真の数も調べました。東京書籍が30社、学校図書が48社、教育出版が19社、啓林館が25社、数研出版が12社、日本文教出版が25社、こういう写真を借りてくるというのも許可を得ないといけないので、数が多くなればなるほど作業が大変になるんですよね。

それでもやはり何か中学生に見せたいというところがあるので、僕はやはりモノづくり・本を作るという意味での視点からしても関わった先生方、引っ張ってきた写真、あとQRコードでどれだけもっと膨らませていくかというところが本当にすごいなと感じました。

○濱崎教育長

ありがとうございました。足立委員どうですか。

○足立委員

導入のページ数で言うと東京書籍が19ページ、学校図書が14ページ、教育出版が15ページ、啓林館が12ページ、数研出版が17ページ、文教出版が14ページになります。ページ数に若干のバラツキがありますがけれども、どこも見やすくしようとか、興味を持ってもらおうという努力が見える部分かなと思っています。

個人的にということにはなるんですけども、その中でも東京書籍、啓林館は全体的なレイアウトやカラーリング、あとイラストの量とかがバランスがいいなというふうには思っています。そのようなところも利用者への配慮の高さが伺えるところかなと思っています。

○富山委員

東京書籍と日本文教出版の2社が1年生だけページが多かったんですよ。ほとんどの出版社が1・2・3年が同じページ数で終わっているのに、この2社だけ1年生のところだけ長くしてあるというところが、僕は逆に算数から数学に変わったところを出版社の皆さんが一生懸命伝えているのかなと思って、ちょっとこのページを割いているところに感動していたんですけども。

○足立委員

ありがとうございました。参考になりました。あとは巻末資料とか、各社の個性も出ていて面白いかなというふう感じたところではあります。東京書籍では、巻末資料で学びの繋がりという学習内容にポイントを絞って纏められていて、保護者の皆さまというような項目で教科書編集のねらいを掲載しています。

あと、裏表紙のページのところに図形カードが掲載されていて、実際に組み立てることが出来るような付録も付いています。個人的には「自分から学ぼう編」という様なことで、縦開きで作成されている啓林館の巻末資料というのは内容と

か情報量・構成とかでなかなか想像力が高いなというふうに感じるころではあります。以上です。

○濱崎教育長

私の方から最後に、前の時に足立委員の方から苦手意識があるというお話で、数学は難しいところはあるんですけども、その辺で工夫しているというところで、啓林館は2つのバージョンで作っておられますけれども、普通、こちらから言うとみんな学ぼう編がふつうの開き方で出来ていて、自分で学ぼうという編が、裏側からスタートして縦にいくという、その中の今まで開けなかった1年生の自分から学ぼう編をちょっと見ていただいたら、7・8ページですが、動物のキャラクターとかがあって特に小学校から中学校1年生にいくあたりのところで、速さ・道のり・時間・割合・少数・分数といった正に小学校でつまづいていくところを丁寧に楽しく学べるような工夫があるのかなと思っております。

それと、選定委員の方でもいろいろ議論があったと思いますが、横開きにするとかかなり幅を取るのが、縦開きにすると机の上でコンパクトに収まるみたいところで、学校の先生が使いやすいのか使いにくいのか、子どもが使いやすいかどうかを分からないですが工夫はされているなというふうなところを最後に紹介をさせていただきました。

基本的に4つの視点でずっと話をしてまいりましたが、何か付けたしはありますか。

○富山委員

現場の先生方がテキストを調査をしてくださった調査報告書、こういうようなものも僕らは事前にきちんと読ませていただいた上で、専門家でもない私たちが見てどうアプローチしていけるかというところで協議してきたと思います。

○濱崎教育長

補足をありがとうございました。よろしいでしょうか。それでは意見も出尽くしたというところで採決のほうに入りたいと思うんですが、いつも私どもは一つずつ教科書会社で手を挙げるやり方でしていますが、それでよろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

いろんなお話をしたので整理をしていく中で総合的に考えた中で、どこを推挙していただくかということで採択に入りたいと思います。

東京書籍0人、学校図書0人、教育出版0人、啓林館3人、

○濱崎教育長

啓林館で3名の挙手がありましたので、啓林館を採択したいというふうに思います。ありがとうございました。

満場一致で決まりましたので、様々な教科書の特色について今、議論をしていただけたのですが、どうでしょう。我々全員が啓林館に手を挙げたので、啓林館を選んだ理由ですね、先程からたくさん言っていたと思うんですが、まとめて言うところこんな感じで選んだんですよというところを一人ひとりお願いしたいと思います。足立委員お願いします。

○足立委員

個人的に学びということに関して考えていることではあるんですが、学ぶことが楽しいというのは、ただ単に興味を持たせるということだけではなくて、分かるということが体験できることがやはりすごく大事じゃないかなと個人的には思っています。

ただ、そういう点で見た時に、啓林館はわかりやすさという図とか、デジタルコンテンツの充実ということだけではなくて、協働学習というようなところにも重きを置いているとか、わかるためにどうするのかという様なところの入り口がすごく多様ななと思いましたし、またそういうようなプロセスを大事にしている印象をもったというところが、私が啓林館さんを選んだ理由です。以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。富山委員お願いします。

○富山委員

私が先ほど2冊はだめですかとお聞きしていたのは、最後の最後までもう一冊の数研出版を悩んでおりました。実際、甲乙付け難いくらい2つの出版社のテキストは本当によく出ているなと感じております。

ただ、啓林館の「みんなで学ぼう編」と「自ら学ぼう編」は本当によくできているシステムで、数研出版ももう一冊別冊を付けられているので、同じ方向性を目指していらっしゃると思うんですけども、纏め具合で言ったらやはり啓林館の方がスマートかなと感じました。

何よりも著者の先生方の数が断トツに多いというところで、僕は啓林館の方を勧めました。それは大学の先生方がそれぞれの思い、中学生にきちんとした数学を教えたいということが本当にこのたった一冊に入り込んでいるんだろうなという気がしました。

あと、QRコードの質と量、それを一生懸命考えておられる出版社かなという感じも受けております。今後この辺もどこまで付けたらいいのか、決まっていないうですし、いっぱい付けたら子どもさんもしんどくなると思いますので、非常に難しい分野・演出分野だと思うんですが、その辺も未来への可能性を感じました。以上です。

○濱崎教育長

最後に、私の方で、冒頭で数学は生活や社会の中でどう有用に働くのかというふうな特に数学はあまり得意ではなかった私は、なんか難しいなということだけで、便利だな、やはりこんな勉強していてよかったな、こういう考え方でものを考えたらいいな、というふうなところはあまり実感できていなかったのかな

と思っておりましたが、やはり役に立つ教科書というところで、ただ、今日のお話の中では富山委員が学生時代の数学の先生で数学に関わる話をたっぷりしてくれたというこれが一番の動機だったのかなということであると、数学の良さがわかる前に、数学って楽しいなということが実感できるような教科書に出会えたらいいのになと思います。

何度も理屈っぽいことばかりを言っていました、数学を学ぶということは、簡単に知識を増すだけではなく、先程も言ったように新しい何か課題、いい話題でも悪い話題でも、出会った時に数学で学んだ見方・考え方を生かして何か解決していくことが身に付けるようにしていけたら強いのかな。特にインターネットとかコンピューターとかビックデータの時代っていうことであるからこそ、数学をより身に付けて学ぶということは益々大事になってくる、そういう意味でいろんなことを言いましたけれども、両委員さんが言われたとおり啓林館の導入が面白い、というのはしっかりとそれを掘り下げて学習していけるような仕組みや工夫がされていて説明も丁寧ですね。

それからQRコンテンツが豊富で読み物としても読みごたえがあるところで興味関心を深めて自らの学びを深めていくことが出来る教科書だな。どの教科書会社もそのことを全て意識しながらかなり研究の方も深められて教科書を出されておりますので、ものすごく選ぶのに苦労したというのが感想ですが、啓林館に決まったということでもよろしくお願いいたします。

長くなりましたので5分ほど休憩を取らせていただきます。3時半になりましたら、保健体育の方の採択を進めたいと思いますのでよろしくお願い致します。

～～5分休憩～～

○濱崎教育長

それでは保健体育の採択の方に入りたいと思います。まず最初に選定委員長から答申をお願い致します。

○萬田選定委員長

それでは、保健体育の採択候補図書3社についての特色等説明をさせていただきます。

まず、東京書籍でございますが、あらゆる項目に配慮がなされており、特に人権の取り扱い、創意工夫、発展的な学習に特色がございます。性の多様性について記載があり、生物学的な性と心の性が一致しない性というのを配慮されています。このような理由から選定委員会は東京書籍を推薦しております。

次に、大修館書店でございますが、あらゆる項目に配慮がなされており、特に人権の取り扱い、発展的な学習、独自項目に特色がございます。見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用しカラーユニバーサルデザインに配慮し構成されています。このような理由から、選定委員会は大修館書店を推薦しています。

最後に、学研教育みらいでございますが、各項目に配慮がなされており、特に、組織、配列、創意工夫に特色がございます。各単元、課題をつかむ、考える・調べる、まとめる・深めると体験活動の充実が図られるよう配慮されており紙面構

成自体が課題解決的な学習の進め方を示しています。

また、選定委員会では、心肺蘇生法や性の多様性についての議論が交わされており、また、選定委員会では、心肺蘇生法につきましても、実技がなかなか出来ない中で写真は必要だという話や、まとめ方等についての話が出ておりました。性の多様性につきましても、内容の充実度合の話等が出ておりました。

また、その他、熱中症に関する記載では、体育分野にも保健分野にも掲載されているという話や、校閲に関する話であったり、QRコードが分かりやすくタブレットを運動場で使う今の時代に合っているという話等が出ておりました。以上でございます。

○濱崎教育長

ありがとうございます。それでは採択の方を始めたいと思います。まず私の方から、保健体育科の教科書の採択にあたって、この辺で議論したいなということをお話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

中学生自身が心も体も急激に成長する大変な時期ですね。バランスも崩しやすいのでいろんなことに配慮していかなければいけないことだと思うんですけども、全ての人がそうですが、心や体の健康は人生を豊かにするうえで本当に課題になろうかと思えます。

またこれから中学生は厳しい予測困難な時代に、豊かな健康的な生活を実現するためにこの保健体育科でしっかりと学んだ科学的な認識を活用して自分たちの日々の生活の中で実践するとともに、習慣化もしていかなければいけないのが中にはあるというふうに思っています。

これも、数学の時にも何回も出てきているキーワードなんですけど、やはり社会自体が多様性と共生というのはすごくキーワードになってくる中で、スポーツをする喜びや楽しさを味わうということに関しても、仲間の多様性を尊重するとか学び合うとか助け合うという学習が必要になってくる。学校でこのことをしっかりしていかなければいけないなというふうに思っていますし、健康というのは、ともすると自分の事というふうに考えがちなのですが、やはり、環境や社会の在り方みたいなのがすごく大きく影響して、そういった環境が自分の健康も阻害してしまうというふうなことも考えられることから言っても、自分だけでなく他者も含め、自然環境も含めて、全体でそういったことを考えられるような思考が必要になってくるので、その辺を探究していく、つき進めていくというような姿勢とか、それをみんなで解決していくというふうなことがすごく大事な学級課題になってくるんではということで、ご議論をいただきたいなと思っています。

数学と同じように各教科書会社が学習指導要領の趣旨を踏まえてどのように工夫しているのか、各教育委員さんが教科書を見られてどういうことを重視してこられているのかということで、また色々なご意見を聞かせていただく中で保健体育の柱を絞らせていただきました。

まず1つは数学と全く一緒です。保健的・体育的な見方・考え方というのをどういうふうに働かせて学習が進んでいくのかということと、どの教科でも重視されていることです。

それから、保健体育科の場合、基本的にはずっと議論になると思うんですが正に資料性が高いということも含めて、細かな内容も一つ一つ見ていくのも大切な

んですけれども、そういった面で本の構成というものが見やすさとか親しみやすさとか写真の扱いとか、正に情報量といったものも含めて一体的に見た方が話がしやすいのかなと思っていますので、全体の本の構成みたいなものでお話していただくということと、保健体育科がこれだけ重要視されているのは、正に体や心の健康を支える今日的課題がたくさん出てきているというようなことも踏まえていくと、生活の質とか健康を支えるといった観点で今日的な課題をどう克服していくのかというふうなこと、この大きな柱3つを考えています。

その他があれば、その他でご意見をいただけたらと思っています。それでよろしいでしょうか。

○委員一同

「異議なし」の発言

○濱崎教育長

そしたら、まず1つ目の柱として、保健的・体育的な見方・考え方ということでお話を進めていきたいと思っていますが、ずっと説明しなくても、お話の中で出てくるのかなというふうに思っておりますので、話を進めてすぐ議論に入りたいと思っています。足立委員どうですか。

○足立委員

では、大修館書店の8ページをご覧くださいませでしょうか。各社それぞれ工夫されてはいますけれども、この大修館書店の8ページには野球の試合を例とした多様な関わり方が記載されていてとても分かりやすいと思いました。スポーツも競技者だけでなく、いろいろなサポートがあって行われるものであるという実態がこれを通じて伝わるのではないかなと思います。以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。体育の見方・考え方ということで例を示していただきました。富山委員はいかがですか。

○富山委員

足立委員のこの野球の関わり方というところもすごく分かりやすいですが、するだけではない、多様な関わり方がありますよという一例を究極に短くすると、東京書籍の52ページを開けていただけますか。マラソンの事で写真4枚で表しておられるので、する・見る・支える・知るということで、すごくテーマとしていることを写真4枚でスムーズに起承転結で伝えていっているところは分かりやすいかなという気がしました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。お二人から体育の方のものの見方・考え方ということで、する・見る・支える・知るということについてお話をいただきました。そのことに関して、私の方は東京書籍ですね、最初の口絵で、オリンピックやパラリンピックの価値を示していて、スポーツを通して多様な関わりを紹介してくれ

ている写真で、写真も見ていても子どもたちはどう感じるのでしょうかね。

スポーツって共生社会を実現する力があるなという、みんなでまとまって共生社会をつくっていく力がある。写真を見ただけでそんなことを私は思ったんですが、子どもたちにも感じてほしいなというふうに思いました。

それから、大修館書店の方で、足立委員からお話がありました。8ページから11ページにかけて運動への関わり方の説明をずっとしているんですが、正に体育の見方・考え方が大きくすることからいわゆる、する・見る・支える・知るみたいなものに広がっていった中に、中学生の今日的な課題というんですかね、我々も気にしているんですが、まったく運動する子としない子の二極化が進んでいるなど、価値観が一つで、運動する方がいいという価値観では、なかなかまとまっていけない今日的な課題なんかかと思っていて、それを子どもたち自身が自分の課題としてどう考えていくんだという様なことで、考えやすい教材だということに思っていて、それに関して8～11ページで勉強した後に、勉強する子としない子の二極化という課題を自分の課題と考えたあとで、20～21ページを見ていただきますと、例えば面白いのでいわゆる日常生活の中でわざと積極的に運動やスポーツをしなくても、それに匹敵するような活動がたくさんありますよというふうなことで、自分の生活を見つめ直すとかいうようなことで運動や活動に消費するエネルギーみたいな資料が載っていたりとか、スポーツと健康をもう少し多様に捉えて自分に合ったようなライフスタイルをどう作っていくのかということ自分で考えていくようなところが面白いなと思っています。

あと、学研教育みらいの22～24ページを見ていただいたら、パッと目についたのですが、道具の進化の靴の進化があって、すごく興味深いなど、スポーツも歴史的に考えていくと面白いなというふうにして、本当に多様に学べるような工夫がなされているなというふうに感じたところです。ものの見方・考え方みたいなところできっと話をしますが、足立委員何かございますか。

○足立委員

重ねてということになりますけれども、スポーツも競技者だけではなくていろんなサポートがあって行われるものであるというような実態を知ることが大切だなと、あと、別の切り口になりますが、よく心と体は一体のものと言われますけれども、健康に関する知識を身に付けて日常生活に生かして、突然の出来事や変化などにも対応して健康的な生活を維持できるようにするようになればいけないと思いますし、そういうようなことを知るための保健体育ということでもあるのかなと。

この教科書をいろいろ見せていただいて、非常に幅広いジャンルを扱っているなというふう感じたのですが、各社ともいろいろと掲載はされているんですけれども、特に東京書籍はジャンルを問わずにこの冊子だけではなくて、多数のインターネットコンテンツをリンクさせるところが個人的にいい印象をもった部分です。以上です。

○富山委員

先ほどの大修館書店の21ページのNASAのコラムなんですけれども、宇宙ではきちんと運動しないとどんどん減っていきますよと、実際、アメリカで宇宙

開発に向けて大学生が実験をしまして、1年間寝たきりで、ご飯食べるのも寝たままで、排せつするのも寝たままで、1年後どうなるのか、1年後ベッドから降りた瞬間にすぐに足が折れてしまったんですね。こういう自分の足で歩くという基本的な地球上の重力に反して骨密度が高まっていくんだということが健康の始まりかなと思って、こういうちょっとしたコラムで生徒さんたちに教えられることがいっぱいあるんだろうなと感じました。

あと、1つ思っていたのが保健体育といいながら、この東京書籍だけが保健体育という順番なんですね。他は体育保健になっているんです。これは何か順番が決まっているもんなんですか。

○濱崎教育長

選定委員長お願いします。

○萬田委員長

選定委員会の中でもその話題は出ておまして、特段どちらがいいのかということではなくて、入りとして保健という知識で学ぶよりは体を動かすという様な感じで先に入った方が入りやすいのかなというふうなお話は出ておりました。

○富山委員

物書きをしていたら、保健体育と書いていたら保健が初めやろうと思ってしまうので、3社のうち1社だけが保健体育の順番で書かれているのが面白いなと思いました。

○濱崎教育長

ありがとうございます。いろんなお話が出ましたけれども、足立委員の方からは健康に関することもふれられていたのですが、これからの中学生にはちょっと難しいかなと思うのですけれども、いろんな科学的な知識とか世界中でこんな思想で考えているとか、いろんな健康に関しての情報がガバッと入ってくるんですね。

そういう意味で東京書籍の162ページに、保健の学習を振り返るのもこれが最後のまとめになっているんですが、そこに生物プロモーションという考え方が、中学生に説明するのはなかなか難しいですけれども、そういう言葉を使っていますね。これはWHOの環境問題なんかで出てきている言葉で、健康な生活を送るには個人の努力も必要だけれどもそれを社会全体で支えていくというふうなことで、社会全体で健康を増進していこうという考え方なんですよ、どうしても個人的なものとしてとられる健康という考え方をみんなで作って支えていくものなのですよというふうな考え方ですね。難しい言葉を使いながら示されているんだなということです。

同じようなヘルスプロモーションという考え方をうまく言葉を使って正に中学生の視点で身につけさせたい内容が書かれている場所がありますということです。少し難しかったですね。保健的な体育的な見方だけで話をするというのは。

他にその点で何かありますか。よろしいですか。

それでは柱の考え方に関してお話ししましたけれども、少しやっぱり話しにく

い、正に保健体育の教科書は資料性が高いので、そういうことでは見やすさ・親しみやすさも全て含んだ条件として資料として総合的にお話をさせていただく方が話がしやすいのかなということなので、そのことも踏まえて本の構成みたいところで話を進めていけたらなと思います。

正に、多様な生徒に学ぶ喜びを与える教科書にするために写真とかイラストの説明とか発展的な学習とか、特にこれは数学もそうだったんですが、より具体的に日常的な実践力みたいなものを付けていかないといけない事案の学びなので、やはりどんな子でも誰でも読みやすい見やすい分かりやすいという工夫もいるのかなというふうに思っていますが、総体的に本の構成みたいところでご意見が聞けたらなというふうに思っています。

○足立委員

第一印象の表紙とかデザインに親しみがあるのかどうかという視点で見た時に、学研教育みらいの表紙のイラストだけ、これは個人的に思うことなんですが垢ぬけているような感じがあって、このイラストがサブカルチャーで人気の高いイラストレーターさんの絵を採用していて、今時っぽい現代風な中学生にはちょっとうけるのかなという様どころが狙いなのかなというふうに感じたところではありました。

あと、内容構成についてはありますけれども、ユニバーサルデザインの観点とかページ進行の仕方、それに伴うまとめ方というような点で3社の特徴が表れているんだなど、簡単に言えば学研教育みらいは1ページ単位での構成ですね。東京書籍と大修館書店は見開きの2ページで1ページをつくるような構成の仕方でした。目で探せなくてはいけないのか、それとも流れがあって自然に目が向くのかというようなところは使う方のストレスの感じ方に差が出てくるところにはなっていくのかなというふうに感じたところです。

○濱崎教育長

ご指摘のように色々な学びのページの開き方とかいうようなことがあるのですが、例えば、どう評価されるのか私が少し気になっているのですが、東京書籍さんをちょっと見ていただいて、ページの構成の部分で何ページでもいいんですが、134ページを開いてもらえますか。ページの構成を見てもらうという意味で、パッと見た時に左に資料があって右に本文がある。何かちょっと違和感がしますか。

○足立委員

紙面をどういうふうに捉えるのかということによるのかなと思うのですが、どっちが本文でどっちが資料でというのがパッと見たときで字の大きさでしか判別できない印象もあるかなと思いました。

○濱崎教育長

たぶん、この書き方は工夫していると思うんですね。普通に結構多いのは、本文が見えやすくなっているその横に資料みたいな逆になる形がね。だから、ふと目の行き方がどうなのかなと思ったのですが、これの説明がなぜこんなことをし

ているのかという説明が一番最初の同じところで説明があって、要は本文を先に見るのではなくて課題を見つけるための資料として課題に目が行く、その中で解決していく過程の中で本文が解説しているみたいな流れ、正に主体的な勉強の方法をするのにそういうふうな順序を変えているかどうか別ですが、そういう意図があるので、今までには見慣れない形だったんですが、教科書としてそういう流れを工夫しているんだなというようなところで、工夫としてはよく考えているなと思うんですが、ただ、先程もおっしゃっていたように目の動きがスッと行くのかというところで少し慣れるまで時間がかかって、先生がこっちから見るんだよというようなことなんでしょうが、教科書って結論を先に読んでしまっって結論が書いてあるので学習の流れを意識した作り方を考えているんだなというふうにここで思いました。他に何かございますか。

○富山委員

実際に、これはテキストなんですが、普段は雑誌を作るのに協力させていただいているのですが、デザイナーという方が本当に時代に即した配置をしてくださるんです。僕も30年そういう仕事を続けているので、30年前と今とでは全然文字の大きさ・フォント・図の入れ方が全然違いますよね。毎年びっくりします。新しいデザインというか、こういうやり方があったのかという、余白と文字とのバランス、これも年々変わっているような気がします。だから、違和感を感じる方が逆にいいのかなとそういう認識でいます。

あと、見やすさで言ったら、写真とかイラストをどれだけ使っているのかなと思っています。ただ、単純に数学の時と同じですが、協力している写真・イラスト・資料というのが、東京書籍では約100社、大修館書店では80社、学研教育みらいでは140社関わっていたので、そういう意味ではすごく頑張っているんだなという感じは受けました。

何よりも、東京書籍のみが4名の校閲者がいるので、それは大きいなと思いました。本が出来上がった後それぞれ確認するというのが、そのテキストを守っている最後の守護神なんだろうなという気もしました。

○濱崎教育長

正に特別支援教育の視点で4名が校閲しているというお話については、その選定委員の意見の中にも特出して出ていた話で、そういう意味で本自体が全てのインクルーシブなハンディを意識しながらつくっていかうという教科書会社の姿勢が出ているのかなというところだと思います。他にはどうですか。

○足立委員

どんな写真を使用しているのかというところも大切かなと思っています。東京書籍は、少し具体的な話ではありますが、AEDのパッドを貼っている写真が他社と比べて大きくて、実際にどこに貼るのか分からない人にもとても分かりやすい、見て分かる状態になっているのがいいなというふうに思いました。

あと、紙面構成は、先に述べた通り、各社の特徴が表れているなど、教育長が先ほどおっしゃられていたことではあるのですが、学研教育みらいは1ページ単位のまとめ方で、左開きの冊子においてはとてもオーソドックスなまとめ方にな

っているなどは思いますけれども、本文と資料の違いがフォントの大きさとカラーの違いのみなので、パッと見というような印象でいくと慣れるまでは判別のしにくさというのを感じるかもしれないなというふうには個人的に感じました。

あと、大修館書店は、見開き2ページで1ページというような構成になっています。一度に目に入る情報はすごく多いので、フォントの大きさ・色分け・枠取りというものを取り入れて本文と資料とか、コラムとかが明確に分けてあるのでユニバーサルデザインというような観点からも見やすい配慮はされているなという風には感じました。

あと、東京書籍も見開き2ページで1ページというふうになった構成になっていますけれども、ページの左端に見付ける学習課題・活用・広げるという様な項目で矢印で流れを明示しているので、見開き構成でありつつも、授業にもっていきやすいというようなそんな構成になっているというような点が利用者にとって優しいかなというふうに感じたところです。以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。見やすさという意味では、3社どの教科書も学ぶことのまとまりとして、たいがい2ページで1単元で見えるようになっているので、その構成はよくできているのかなと、その中で色の使い方とか字の大きさとか資料が微妙に違ってどれが見やすいかなとずっと見ているのですが、遜色ないんですけども見やすさに差はあるのかなというふうには思っております。

○富山委員

足立委員がおっしゃっていた東京書籍の心肺蘇生法のところは本当に充実していますね。教科書で学んだことを日常にどう生かすかということはすごく大拙ですし、逆にテキストを見て全部すぐに記憶できる子とそうでない子と、動画の方が見慣れているという人もいると思うので、そういう意味では数学と一緒にQRコードを使って心肺蘇生法の動画もあるみたいなのでそういうものも見ながら実際自分で学ぶという、静止画ではなくて動画、もしくは両方選ぶことが出来るコンテンツにしておく方が今後のために絶対いいかなと思いました。

○濱崎教育長

いろいろ出ましたね。足立委員の方からも、AEDのお話がありました。富山委員から心肺蘇生法の話で、この心肺蘇生法も今回初めてなのかな。保健の分野で技能の実習という正に読んで覚えるのではなくて実習しなければいけないというような内容で、教科書の方に本当に大切な内容となっているので、各教科書はすごくここに力を入れて作っているのかなというふうに思いますが、このコロナの時代に考えさせられること、実習も出来ないというふうなことで、紙ベースで実習の技能を学び取るというふうな話でいうとかなり難しい、そこに動画がコンテンツとして入っているというふうなことで、本当に東京書籍も結構なページを割いて詳しく説明されていますし、学研教育みらいも結構見開きでポイントチェックが大切で写真がうまく右にあってまとまっているように見えます。126ページを一度見てもらえますか。見開きで左の方でコンパクトに説明の流れが書かれていて、右のページで写真がチェックポイントで使われているという結構見や

すい構成になっているのかなというふうに思います。

色々お話がありましたけれども、見やすさという点ではどこでも一番最初に保健体育のところで気が付いたのですが、見やすさを前面に各教科書も押し出されているなという感じで、どの教科書も本当に今まさに多様な生徒がこの教科書を使うんだということを前提にして、例えば、教育漢字以外の常用漢字を必ずふりがなを振っているとか、色覚の配慮がなされているとかいうようなところで甲乙付けがたいかなというふうに思っていますが、順番をつけるというふうなことで言えば東京書籍と大修館書店が少し見やすいのかなという印象はもっております。

他にどうですか。そしたら最後の観点になるのかも分かりませんが、先程申しましたように、変化が激しい時代です。保健体育の分野で学ぶことということが今日的な課題なんですけれども、中学生にも色々なことがあって、一番最初に出した運動の事につきましては、しない子とする子の二極化みたいな課題があるし、防災教育もすごく大きな課題があります。

それから、心の健康についても様々な課題があったり、犯罪被害というのに子どもも巻き込まれる時代になっている、携帯やスマートフォンとかも健康問題に絡んでいるということ、また、がん教育、それから同じようなことで情報の活用と情報のリテラシー、正に地球規模で環境問題、というようなことで保健体育ってたくさんの事がそこに書かれているということなので、しっかりとそういう環境の中でどういうふうにして生活の質や健康を支えていくのかというようなことを考えていくことが重要な柱なのかなというふうに思っています。

その柱でこれからお話をさせていただきたいのですが、正に持続可能な社会で生きる力として多様性がある社会で心や体が健康で楽しく生活すること、また、自然災害に対応するため防災に関することみたいなことも学びながら、中学生である子どもであるとしても、地域で支えあっていく一人のメンバーとしてどういうふう生きていくのかというふうなことを体験させて実感させるというふうな様々な議論ができたかなと思っています。足立委員お願いします。

○足立委員

スマートフォンやインターネットの使い方による影響とか精神の在り方というのが、身体に与える影響は大きいと思いますので、心の健康について学ぶことも日常に生かすことができているのではないかなというふうには思っています。

あと、各社ともストレスの対処法としてリラクゼーションの方法が掲載されていて、気持ちが沈んでいる時のストレス軽減にも役立ついいネタだなというふうには感じました。特に東京書籍は、Dマークコンテンツというもので独自の動画も見る事が出来るようになっていて、実践しやすいなど、分かりやすいなというふうには感じた部分です。

東京書籍で言うと42ページに掲載があります。大修館書店で言うと52ページから53ページにかけて、学研教育みらいは64ページにリラクゼーションの方法というのが掲載されていますので後でご覧になってみてください。

あと、大修館書店はインターネットに関連する事柄を幅広い章で取り上げている印象があって、啓発面ですごく有効だなというふうには感じています。ちょっと前まで何かものを伝える時というのは文章が主体だったのが、あっという間に画像で伝えるものになって、それもあっという間に終わって今や動画という様な時

代になっては来ているんですけれども、つくづく時代の流れは速いなと思いますし、教科書の世界にもそういうような時代背景みたいなものを反映していかないといけないんだなというふう感じた部分でもあります。以上です。

○濱崎教育長

ありがとうございます。僕が注目しているのがストレスの対処法とリラクゼーションで、こういう時代になってきたのかなと。元気溘刺な子どもというイメージしか子どものイメージはないんですけれども、ストレスを手法として技能としてリラクゼーションの方法を学んで自分で活用する息抜きの方法ですね。詳しくは書いてありますが、デジタルコンテンツも表示されていて丁寧に説明されている時代だなという正に心の時代なのかなというふうなことに思います。

さらに、東京書籍ではさらにその辺も深めて、心の健康の対処法として積極的により良い人間関係を築くためにコミュニケーション能力をどう高めていくのかということで、ここまで難しい言葉が使われるんですけれども、東京書籍の45・46ページを見ていただけますか。自己啓発書みたいな文章の流れになっていて、自分の気持ちをどうコントロールするのかというふうなことの手法も学んでいかないといけないというふうなことの中で、45ページの右側の下で、好ましい方法としてアサーションという方法ですね。こういう心理学の言葉を使いながら実践方法を情報を提供しているというようなことや、インターネットによるコミュニケーショントラブルの情報モラルというようなこともしっかりと書かれているというようなことです。

それから、心の健康について分かりやすい、面白いなと思ったのが、学校教育みらいの62ページの資料5のストレスで、心の状態をゴムマリに例えてイラストで描かれていますけれども、分かりやすいかな、なるほどなという、私の心がこれくらい凹んでいるのかなというふうなことで、また説明を上手にされているなと思ったところです。富山委員はどうですか。

○富山委員

こういう心のストレスから引き起こされているかもしれないという今日の課題はずっと続いているんですが、いじめの問題がやはり一番大きいと思います。例えば大修館書店の55ページに内藤大助さんが体験談を語っている部分があるんですけど、世界チャンピオンにまでなった人でもこういう体験があるんだということで、少しでも勇気をもらえと思う。小さなコラムでもここからイジメ問題に立ち向かっていこうとするきっかけになるかもしれない。

私は専門が植物関係ですので、環境問題にすごく興味があります。環境がおかしくなれば人間の体も維持できないと感じている。身体・心の健康も大切ですが、環境が伴っていなければ健康被害が起きると思いますので、教科書の中にどれだけ環境について記載されているか注目してみました。

東京書籍は144ページに地球温暖化による健康への影響について書かれています。学研では168ページに健康と環境というページがあります。大修館書店は127ページに生活と環境問題というのがあります。

個人の力では何もできないかもしれません。ただ、意識して生きていかないと自分の健康というのはあくまでも自然の環境の中で自然の一部なんだという意識

を中学生にわかっていただくためには必要と感じた。

○濱崎教育長

SDGsについてですが、足立委員は何かありますか。

○足立委員

いまは色んな所でSDGsという言葉を見聞きするという状況です。すごく壮大かつ抽象的なので言葉だけ独り歩きしている面もあるのかもしれない。リアリティを感じていない人もいると感じる。

そんな中で大修館書店は口絵の7から8ページで学研教育みらいは148ページ、189ページ、東京図書は166ページにSDGsについて記載がありました。日常の中で私たちができることは何かを提示できていると、今後の意識が変わるかなと思います。一部の人だけでなく、一人ひとりの取組みで実現していくものであると謳っている大修館書店の口絵からは、水資源やクリーンなエネルギー、ごみの分別について考えることも大切だと子どもたちもより身近な問題として考えることが出来ると思う。

○濱崎教育長

お二人からSDGsについての発言がありました。

保健体育の教科書を見てみると、学習することの多くは、SDGsの目標や課題に関連することが多い。足立委員や富山委員のお話の通り大修館書店の口絵が目をはきまずし、東京書籍の巻末の164ページの資料で、我々が子どもたちに何を教えるかという中で、まず、中学生に自分たちは未来社会の担い手であるという当事者意識を持ってもらわないといけない。また、自分でできることから取り組めることは何かを考えさせている。日常の実践につなげたいですね。

○富山委員

江戸時代の人口密度は当時世界一といわれていて、100万人が住んでいた。当時のイギリスで86万人、パリでも55万人でなぜそこまで繁栄できたのか。日本人はSDGsを当時から実践していたと思う。

大修館書店の166ページのコラムでは日本の江戸時代のし尿処理について記載がある。肥というのはエネルギーの塊で、日本人はそのことに気づいていた。現在我々は新幹線や飛行機で移動できますが、そのためにエネルギーの無駄遣いをしている。生活排水の問題、ゴミ問題、し尿処理の問題、廃棄物の衛生管理、すべて人間の健康に関わってくるんだという事を中学生にお伝えしたいと思う。東日本大震災のこともあり放射線のことでも理解してもらいたい。パイロット、キャビンアテンダント、医者も年間被ばく量を把握している。知識を少しでも身に付けていただいで一つでも解決できればと思う。

○濱崎教育長

こういう授業の時はぜひ富山委員に講師に来てもらいたい。

○富山委員

ありがとうございます。しゃべりだしたら4日くらいしゃべってしまいます。

○濱崎教育長

富山委員から放射線の話が出てきました。

日本人が高齢化している中で死因の約30%を占めるがんについては、自分たちの身近なところで起こることで、今日的な課題です。生徒に学んでもらいたいと思いますが、学んだことを自分自身はもちろん、家族や周りの人の病気の予防や早期発見、適切な生活習慣について考える機会を設けることが大切で、そういった意味では、各社ががん教育について書かれています。学研教育みらい91ページでは、まとめのがん啓発ポスターでがんに向き合うことが考えられています。大修館書店の83ページではがん体験者のことばが記載されており、自分や家族のことを考える機会になると思います。

それから、防災に関わる学習も共生社会では大切で東京書籍では重視していて、口絵とか章末の資料で、危険を予測し回避する力、気象情報の入手方法、発展として共に生きる、地域の人たちと支え合う、でまとめています。

また、大修館書店には、自然災害が多い中、どのタイミングで避難行動をとるか、自分の命を守る、警戒レベルについて記載されている。

また、性の多様性については、多様性の尊重や共生の視点から、学研教育みらいが性的マイノリティーを取り扱い、東京書籍は「性についてのわたしたちの心は多様です」自分らしさとその人らしさについて、適切に扱っていると思います。

○濱崎教育長

3つ目の課題について議論してきました。他何かありますか。

かなり広くご議論をいただきました。

それでは採択に入ります。

挙手をお願いします。

東京書籍3人、大修館書店0人、学研教育みらい0人

○濱崎教育長

それでは、東京書籍を採択することといたします。

○濱崎教育長

満場一致で決まりましたが、教科書の特徴について議論いただきましたが、あらためて、委員の皆様が、なぜそれを選んだかについて、おはなしいただけますか。

○足立委員

正直なところ、東京書籍と大修館書店で迷った。

見やすさも共に配慮されているが、東京書籍は矢印で流れを明示しており、振り返りがしやすい点を評価した。

東京書籍には動画やシュミレーションなどのコンテンツが50個あることも時代にあっている魅力と判断したことが選出理由です。

○富山委員

自分も本を書いているのでわかるが、泣く泣く削除している箇所がある。本を比較する際には全部買って比較する。今回のこの3冊には差がないと思う。ただ、東京書籍が見やすかった。中に含まれている熱量はほぼ一緒だと感じた。もし予算が許されるなら3冊とも購入していただきたい。学力向上につながると思う。最後に非現実的なことを言ってしまいました。

○濱崎教育長

保健体育の教科書はどうあるべきか、を考えた時に、授業に関係なく見ている教科書、生徒が興味関心をもってみたいくなる教科書、つつい教科書を開いてしまうものだと思う。誰もが見やすくわかりやすい工夫として、特別支援教育の観点を踏まえ、多様な生徒が読みやすい、見やすいように文字や色レイアウトの工夫、今日的な課題に関わる資料が多く資料性の高い教科書だと思う。

また、これからの共生社会で創造的に生きていく生徒を意識して、共生を意識し支え合う社会、多様性への配慮があるものもいい。

そのなかで、東京書籍がよかったと思う。

○富山委員

教育長、また非現実的な話をするのですが、教科書を選定するにあたって出来ましたら各出版社が他社の教科書の良いところを8割示して、2割アドバイスして、自社の教科書には一切触れない、それをすべての出版社の方にしてもらって、プレゼンしてもらったら我々はすごく聞きやすい。自ずと自社の教科書の足りないところが見えてくると思う。営業は誰しも自社の良い所ばかりを言うものです。教科書はどうすれば理想の形に持っていけるのかを考えた時に、競合他社の良いところを褒めるという前向きなことをしていただければ理想に近づけると思う。

○濱崎教育長

ご提言ありがとうございます。

長時間にわたるご審議ありがとうございました。令和5年度使用学校教科用図書採択は、市教育委員会事務局、府教育委員会、各学校等の積極的な協力のもと、また市民からも幅広い意見が届けられ、本日、採択の最終日を迎えることができました。

学習指導要領の趣旨に則るとともに、本市の教育課題の一つでもあります「確かな学びが実感できる学校づくり」を進めていくことを念頭に置いて、教科書の採択を行い、本日無事終えることができました。

来年4月から、本日採択した教科書を用いて、それぞれの学校において、主体的・対話的で深い学びを各教科で実践し、「学ぶ・わかる・できる」を本市の生徒が実感できる質の高い教育の提供をめざします。

これをもちまして、臨時教育委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

会議事項が終了したので、閉会を宣する。

午後 4 時 4 0 分